

ECB、景気減速にも配慮を始める

ポイント① 2会合連続で0.75%の利上げ

ECB（欧州中央銀行）は10月27日の理事会で、主要政策金利を0.75%引き上げることを決定しました（適用は11月2日から）。0.75%の利上げは2会合連続となります。ラガルド総裁は会見で「物価を中期目標に戻すため、一段と利上げを進める」とし、引き続き、追加利上げの可能性を示唆しました。

ポイント② インフレと景気の両にらみへ

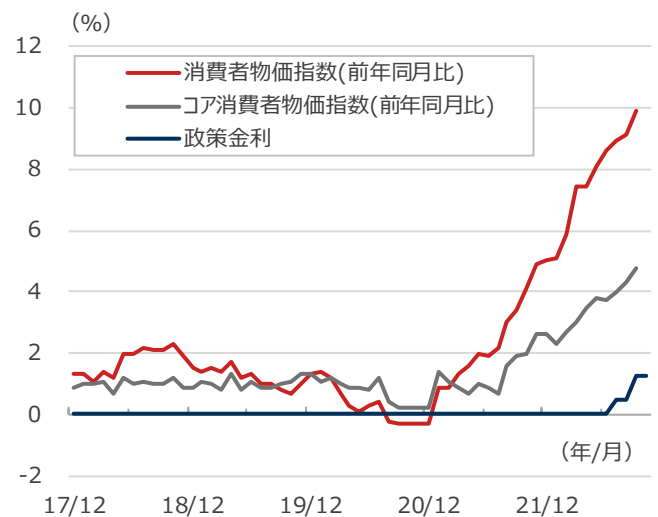
市場では今回の声明文が大きく注目されました。というのも、前回までは「インフレ抑制」一辺倒だったものが、今回は「インフレ抑制と景気」に注視しながら政策運営を行なうとし、「景気」の要素を加えたためです。市場はこの変化を「ECBのハト派シフト」と受け止め、ドイツなどのユーロ圏諸国の国債利回りが大幅に低下し、為替ではユーロが対米ドルで下落しました。

ポイント③ 注目される今後のECBの対応

ユーロ圏のインフレ率は高止まりしており、9月のCPI（消費者物価指数）は前年同月比で+9.9%と米国より高水準です。一方、ユーロ圏の景気動向を示すPMI（購買担当者景気指数）は、製造業が4ヵ月連続、サービス業が3ヵ月連続で、好不況の境目となる50を下回っており、インフレと景気悪化が同時進行するスタグレーションの様相を示しています。

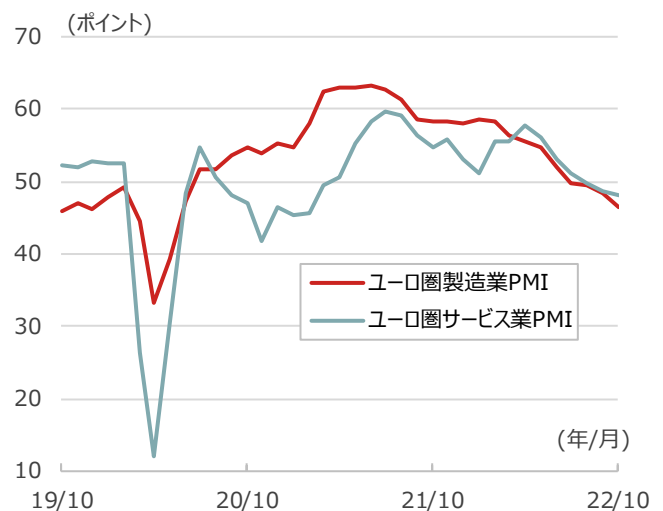
こうした難しい状況にあるため、ECBはインフレと景気を両にらみする政策にシフトし始めたと考えられ、これまでは金融引き締めが加速してきましたが、その姿勢に変化が出てくる可能性があります。

ユーロ圏の消費者物価指数と政策金利



期間：（消費者物価指数）2017年12月～2022年9月、月次
（政策金利）2017年12月末～2022年10月27日、月次
※政策金利の引き上げは11月2日から適用のためグラフ上には表示されません。
コア消費者物価指数は、エネルギー、食品、酒、たばこを除く
政策金利は主要リファイナンスレート
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

ユーロ圏のPMI



期間：2019年10月～2022年10月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
10月31日 ユーロ圏消費者物価指数（10月）
11月8日 ユーロ圏小売売上高（9月）